

2024 年度 異文化理解プログラム（ベトナム）

学生 事後レポート

今回、本プログラムへ参加した学生は「参加した目的・学んだこと、挑戦したこと、今後の学生生活・キャリアにどう生かしていくか」を中心に、事後レポートを作成しました。

以下の通り、レポートの一部を抜粋して紹介します。

法政大学に入学してから、大学から届く「留学募集」という案内をたくさん目にし「参加してみたい」という気持ちはありませんでした。しかし、自分の英語力に自信が持てず、何度も諦めてしまっていました。受験英語という形で高校3年間勉強してきたものの、「話しかけてもうまく英語で返せないかも」と考えてしまい、交流したくてもできないもどかしさを感じ続けていました。そんな時、この異文化理解プログラムの案内で「日本語でも参加可能」と書かれているのを見て、「これなら挑戦できるかもしれない」と強く思いました。

私にとってこのプログラムに参加する目的は以下の2点でした。ひとつは、自分の自信のなさを克服すること。何かに一歩踏み出す勇氣は、海外渡航・海外留学に限らずどんな場面でも必要なことだと思います。このプログラムを通じて得られる経験が、これからの自分を前向きに変えていくきっかけになればいいなと思いました。もうひとつは、日本語、日本という国が海外の学生たちに、どう受け止められているのかを自分の目で見て、直接感じてみたいという思いからです。これは実際に日本から飛び出してみなければ得られない貴重な経験だと思ったからです。

本プログラムの準備期間（オンライン交流会等）から現地でのフィールドワークまで、本当に様々な事を経験させていただき、多くのことを学びました。海外の人と交流するにあたって、どんな表現や言葉遣いなら相手に伝わりやすいかを考えたり、ジェスチャーや笑顔がどれほど安心感を与えられるのかを実感できたのは大きな学びでした。特に、ULIS の学生たちがとても流暢に日本語を話している姿を見て、「言語を学ぶことで見える世界が変わるんだ」と強く感じました。彼らは日本の文化について幅広い知識を持っていて、その話を聞くだけでもとても興味深く、なにより、「こんなにも日本に興味を持ってくれているんだ」と感動しました。海外で日本文化について語るといふ経験も、新鮮で印象に残っています。

さらに、法政大学 OBOG との交流や企業訪問を通して、自分の大学の卒業生たちが世界を舞台に活躍していることを知り、「海外就職」という選択肢もあるのだと気づかされました。言語の壁を恐れず、好奇心を原動力にして海外で働いているその姿勢に、大きな勇氣をもらいました。

帰国した今でも、ハノイの街並み、バイクの音やモヤッとした空気がまるで昨日のことのよう思い出されます。このプログラムを通して、もっと言語学習に力を入れたいと思うようになりました。そして、これからもたくさんの方に興味を持ち、恐れずにいろいろなことに挑戦していきたいと強く思います。

今回のプログラムに参加したきっかけは、実際に異国の文化や人々と直接触れ合うことで、机上やインターネットでは得られないリアルな異文化理解を深めたいと思ったからです。ベトナムには歴史的な建物や伝統文化、独自の食文化など、長い年月をかけて築かれてきた魅力が多くあります。そうした文化的な土台に触れると同時に、今回は年の近い学生との交流も多く予定されていたため、ベトナムの若者たちの視点から見た価値観を知ることも楽しみにしていました。

実際に Zoom での事前交流を経てベトナムを訪れ、現地の空気感や人の温かさに直接触れられたことは、大きな収穫でした。学生との交流では、言語や文化の壁を越えてつながる楽しさや新鮮さを感じると同時に、自

2024 年度 異文化理解プログラム（ベトナム）

学生 事後レポート

分とは異なる考え方に触れることで、視野が大きく広がりました。一緒に出かけたりごはんを食べたりして良い時間を過ごせました。特に、事前に覚えていったベトナム語が通じて褒めてもらえたことがとても嬉しかったです。また、在越日本大使館、JETRO、国際交流基金、現地企業を訪問し、国際社会における日本の役割や、ベトナムの経済発展の現状についても学ぶことができました。OBOG 会で、現地で活躍されている OB の方が「このバーに来るとなんだか安心する。ここに来ると帰ってきたような気持ちになる」とおっしゃっていたのが印象に残っています。言葉も習慣も異なる環境の中で、日本に関するものを見つけると、それだけでほっとするような感覚は、自分のルーツとつながる安心感からくるのだと思いました。だからこそ、経済的な意味合いだけでなく、海外で頑張っている人たちの心の拠り所となるよう、日本文化を発信し続けることもとても大切なことだと感じました。

今回の経験を通じて、何か新しいことに挑戦してみたいという気持ちが一層強まりました。新しい環境に飛び込むことでしか見えないものもあるという実感が大きいので、うまくいく・いかない関係なく、とりあえず行動することを意識していきたいです。今回の出会いや学びをずっと大切にします。

私は以前から異文化理解に関心があり、本プログラムは実際に現地に赴き、直接学ぶことができる貴重な機会であることに魅力を感じ、興味を持った。大学生活を送る中で、私は新しい価値観に触れることを大事にしており、大学1年時から色々なプログラムに参加してきた。その中で、様々な人々と出会い、多様な価値観に触れることで自身の視野を広げることができた。本プログラムを通じてベトナムの学生たちと交流し、また新たな視点や価値観を得られることを期待して参加することに決めた。個人的な目標として、「新しい価値観や文化に触れ、自らの視野を広げること。また、この活動を通して、自分の今後のキャリアや成長へ繋げること」を設定し、このプログラムに臨んだ。また、自分自身の外国語学習のモチベーション向上にも繋がりたいと考えていた。これまで外国語を学びたいという気持ちはあったものの、具体的な目標を持たないことで学習が疎かになりがちだったため、学生たちとの交流や現地フィールドワークを通して、外国語学習への意欲を高める良い機会にしたいと考えた。

私はいわゆる開発途上国、新興国と呼ばれる国を訪れた経験がなく、全てが新鮮であった。観光客も中国や韓国、近隣の東南アジアの国からの旅行客が多く、街の中で日本語を使っている人を見なかったことから、日本人の観光客は少ない印象を受けた。街並みは、ベトナムではカフェ文化が根付いていることから、フランス植民地時代に整備された景観や歩道と共に、たくさんのカフェが立ち並んでいた。カフェでは店内だけでなく店外の席も多く、机と椅子も店外に向けて設置されていることもあり、街を歩くだけでも日本と全く異なる文化を感じることが出来た。他にも、タクシーやバイクタクシーを利用するのが普通である点や衛生面の違いなど、日本との文化的な違いを体感した。

全体を通して印象に残っていることは、ハノイ国家大学外国語大学の学生たちとの現地フィールドワークである。タクシーでの移動中や食事中に、日本との文化や価値観の違いから個人的なことまでたくさん話をし、異文化交流ができた良い機会であった。また、日本語スピーチコンテストの協力も印象的であった。オンラインで交流していた相手と現地で会うことも感動があった。練習相手の学生とは、ZOOM や SNS で交流してやり取りを続けていたが、練習するだけでなく、お互いのことやベトナムと日本の違いの話など、様々な話題で

2024 年度 異文化理解プログラム（ベトナム）

学生 事後レポート

盛り上がった。言語や文化の違いがあるからこそ、相手の意図をしっかりと汲み取ろうとするため、良いコミュニケーションが取れたのではないと思う。

「新しい価値観や文化に触れ、自らの視野を広げる」という自分で設定した目的に対して、このプログラムを通して達成できたと感じる。外国語学習に関しては、現地の学生たちとの交流によってモチベーション向上に繋がった。ハノイ国家大学外国語大学の学生たちやスピーチコンテストの練習相手と交流する中で、海外の同世代の学生が日本語を使って自らの言葉で思いを伝えようとする姿に刺激を受けた。私も日本語以外の言語を使えるようになったらより広い視野を持ち、国際的な交流ができるのではないかと強く感じるようになった。キャリア観の変化としては、私は英語に苦手意識があり、海外で働くというキャリアの選択肢を現実的に考えたことがなかった。しかし、今回現地の企業や公的機関で働くさまざまな方から直接お話を伺い、実際の職場や仕事の様子を知る中で、魅力を感じるようになった。完璧な言語能力はなくても、身振り手振りや図解などを活用することで十分な意思疎通が可能であり、同じ目的や目標を共有する中で信頼関係を構築することが可能であることを、身をもって感じた。また、国際交流基金へ訪問した際、映画事業に関わる仕事のやりがいや難しさを伺い、日本の文化を海外に向けて発信する仕事に対して特に魅力を感じた。エンターテインメントや文化を通して国や人同士を結ぶことに心を動かされ、文化発信や国際交流の分野に関わることも自分の将来のキャリアの選択肢の一つとして考えるようになった。

このように、今回の異文化交流プログラムを通じて、私自身のキャリアに対する視野が大きく広がり、外国語学習への意欲も一層高まった。海外の学生と直接コミュニケーションを取り、文化や価値観の違いに触れたことで、実践的な気づきや刺激も得ることができた。こうした経験を、これから就職活動を始める今のタイミングで得られたことは、非常に有意義であったと感じている。今後は、国内外を問わず、自分の興味や関心を活かせる場や機会を模索していきたい。

（学んだことなどについて）一部のベトナムの若者の考え方や価値観。ベトナムという国の食文化や支払い時の決算方法。印象に残っていることは、交流した学生の多くが将来はベトナムにいたいと感じていたところ。個人がもつ家族という存在が日本よりも大きい気がした。家族と離れるのは寂しいからベトナムに居たいとのこと。家族と関係が良好ではない人たちの居場所や環境はあるのかと質問したところ、みんな結婚して新しい家庭に移るからと返答され、平均年齢の違いを感じた。

今回の異文化理解プログラムに参加した目的は、ベトナムという国に対する文化的理解をより深めることであった。私はこれまで、数回ベトナムを訪れる機会があった。現地の人々との交流を通して、ベトナムの人々が持つ温かさや礼儀正しさ、家族を大切にする価値観、そして目まぐるしい経済発展のなかで変化し続ける社会の姿に強く惹かれた。そのような背景から、単なる旅行者の視点ではなく、現地の学生や企業で働く方々と直接交流し、より深くベトナムの文化や社会を理解したいという思いが芽生えた。そして、このプログラムはまさにその願いを叶える貴重な機会であると感じ、参加を決意した。

実際にプログラムに参加してみて、最も印象に残ったのは現地の大学生との対話や交流会である。価値観や行動様式など、私たちが普段当たり前だと感じていることが、異なる文化の中ではまったく異なる形で表れ

2024 年度 異文化理解プログラム（ベトナム）

学生 事後レポート

ることを実感した。その一方で、国境を越えて通じ合える部分があることにも気づかされた。また、現地で働く日本人の方々のお話からは、ベトナムにおける日系企業の役割や、日本との関係性、異文化の中で働く上での工夫や姿勢について学ぶことができ、自分の将来像をより具体的に描くヒントとなった。

今回の経験を通じて、私はベトナムという国に対する理解と愛着をさらに深めることができた。そして、今後の学生生活においても、異文化理解をテーマにした学びや活動に積極的に取り組んでいきたい。また、将来的には、東南アジアを舞台に異なる文化や人々をつなぐ仕事に携わりたいという思いをより一層強くした。今回のプログラムは、その第一歩となる大きな経験であった。

私がこのプログラムに参加したいと思ったきっかけは、主にふたつあります。

一つ目は、多くの価値観を持った人々と出会いたいと思ったからです。この異文化理解プログラムに参加する学生、スタッフはもちろんのこと、現地で知り合う方々と様々な議論を重ねることができればこのプログラムに参加した価値はあるだろうと考えました。

二つ目は、自分が日本から出て海外で、マイノリティーの立場に一度立ってみたいだったからです。普段日本では感じる事ができないであろう、自分がその他大多数ではないことを肌で感じ、自分が無意識のうちに形成していた価値観を壊したいと感じていました。

このプログラムを通して、現地で活躍している法政 OB の方と食事会を開催できたのはとても刺激になりました。ここで私は、海外で働くことの現実味がかなり強まり、また大学生活に対する固定観念が壊れました。言語をいくつも操れる方、会社を立ち上げ CEO を勤めている方、そのような方々を見て英語を話せることは日本では強みであっても、海外では単なる会話の手段にすぎないことを痛感しました。

このプログラムを通じて出会った仲間から紹介していただいた海外のインターンシップに 4 月から行くことを決心しました。これは、私が海外で仕事をしたいことをプログラム期間中に何度も発信していたことがもたらした貴重なチャンスだと思っています。このプログラムに参加する前の目的はプログラム中に大きく変化しました。それはプログラム中に私の価値観の変化に伴って変わっていきました。大学生活のうちに海外で仕事を見つけることが私の一つの大きな目標になり、期間中はそれに向かって行動しました。

このプログラムは、私の既存の価値観を大きく変えるとともに、私の大学人生を大きく変えてくれるだろうチャンスをもたらしてくれました。まだまだ人生のビジョンは立っていませんが、ひたすら私の興味のある物事に取り組んでいく姿勢を貫き通して今後の大学生生活をさらに飛躍させていきたいです。

現地フィールドワークの中で、3 日目には ULIS の学生と共に現地探索を行いました。

その際の思い出の写真を、学生のコメントと共に、次のページにて一部紹介します。

2024 年度 異文化理解プログラム（ベトナム）

学生 事後レポート

～現地探索時 思い出の写真～



▲これは全員でホアロー収容所に行った際の写真です。ULISの学生たちが事前に調べてきてくれたため、解説を聞きながら収容所内を見学しました。



▲同じチームだったベトナムの学生たちが考えてくれた押し花です。その日にまわった所に落ちていたお花や葉っぱをみんな貼って行きました。



▲この写真はフィールドワークの午後に訪れたタンロン遺跡での一枚です。歩き疲れてみんなで一休み。この後どういう風に行動しようか作戦を練っています。



▲ULISの学生と一緒に食べたフォーの写真です。これまでに食べたフォーの中で一番美味しかったです！



▲お昼ごはんの写真。
餅とおせんべいの間みたいな感じでした。



▲この写真は、ULISの学生と、ベトナムの伝統衣装アオザイのレンタルショップで着替え終わったときの写真です。男性用は少なかったですが、女性用はきれいで美しいものばかりでした。

以上